秋 田 県 内 中 小 企 業 景 況 調 査 結 果

（2021 年 7～9 月期）

秋田県商工会議所連合会

〈内容〉

Ⅰ．全産業の項目別DI値
Ⅱ．産業別DI値
Ⅲ．地域別DI値
Ⅳ．産業別設備投資
Ⅴ．地域別設備投資
Ⅵ．経営上の問題点
Ⅶ～Ⅹ．付帯調査
Ⅺ．総括表

※　景気判断・DI値とは、「増加」・「好転」・「過剰」したとする企業割合から「減少」・「悪化」・「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。（▲：マイナス）

≪参考≫県内景況調査に対する各企業のコメント　一覧

〈回収状況〉

業　種	対象企業数	有効回答企業数
建設業	40	37　（92.5%）
製造業	40	34　（85.0%）
卸売業	40	33　（82.5%）
小売業	40	33　（82.5%）
サービス業	40	35　（87.5%）
合　計	200	172　（86.0%）

地　域	対象企業数	有効回答企業数
県　北	50	40　（80.0%）
県　央	75	65　（86.7%）
県　南	75	67　（89.3%）

Ⅰ．全産業の項目別DI値

1．業況

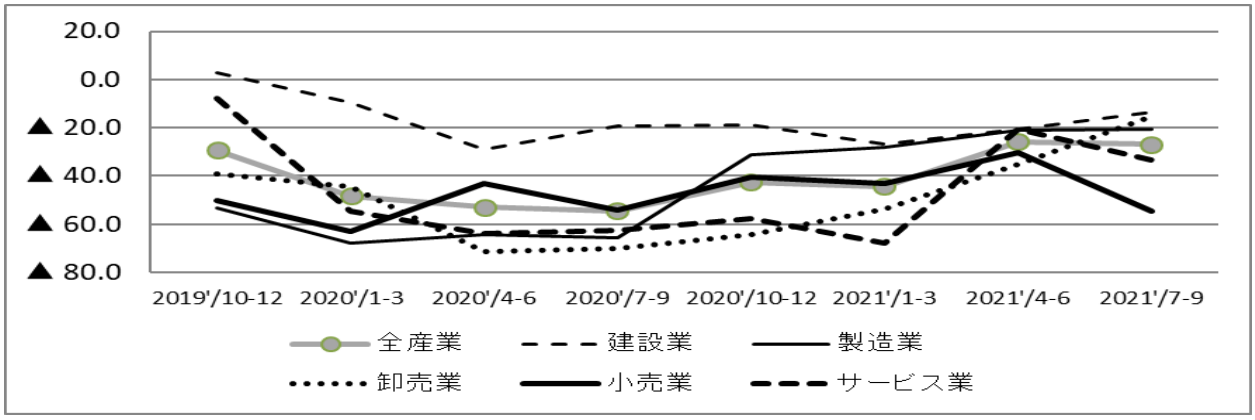
今期（7～9 月）の業況 DI 値は、全産業で▲27.0 と前期比でわずかながら悪化した。

産業別では、小売業、サービス業が悪化した。特に小売業はマイナス 24.1 ポイントの▲54.6 と厳しい状況となった。一方、卸売業、建設業、製造業は改善した。特に卸売業はプラス 20.1 ポイントと大幅に改善した。

来期の見通し（10～12 月）は、全産業で▲29.8 と今期比でわずかながら悪化を見通している。

産業別では、小売業が横ばい、建設業、卸売業、サービスで悪化を見通す一方、製造業はプラス 17.6 ポイントの大幅な改善を見通している。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	(D)−(C)
全　産　業	▲ 25.8	▲ 28.8	▲ 27.0	−1.2	▲ 29.8	−2.8
建　設　業	▲ 20.6	▲ 15.1	▲ 13.5	7.1	▲ 28.5	−15.0
製　造　業	▲ 21.2	▲ 15.1	▲ 20.6	0.6	▲ 3.0	17.6
卸　売　業	▲ 35.3	▲ 41.2	▲ 15.2	20.1	▲ 25.0	−9.8
小　売　業	▲ 30.5	▲ 34.3	▲ 54.6	−24.1	▲ 54.6	0.0
サービス業	▲ 20.6	▲ 37.1	▲ 33.3	−12.7	▲ 37.2	−3.9



2．売上額・完成工事額

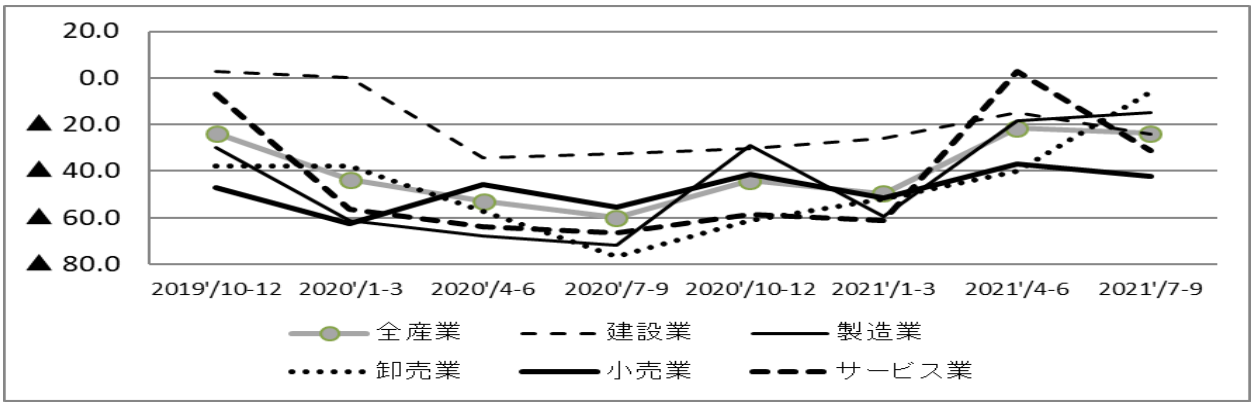
今期（7～9 月）の売上額・完成工事額 DI 値は、全産業で▲23.9 と前期比でわずかながら悪化した。

産業別では、サービス業、建設業、小売業が悪化した。特にサービス業はマイナス 34.2 ポイントと大幅に悪化し、前期のプラスからマイナスに転じた。一方、卸売業、製造業は改善した。特に卸売業はプラス 33.9 ポイントと大幅に改善した。

来期の見通し（10～12 月）は、全産業で▲25.9 と今期比でわずかながら悪化を見通している。

産業別では、卸売業、小売業、サービス業で悪化を見通している。特に卸売業はマイナス 21.2 ポイントの大幅な悪化を見通している。一方、製造業、建設業は改善を見通している。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	(D)−(C)
全　産　業	▲ 21.7	▲ 29.7	▲ 23.9	−2.2	▲ 25.9	−2.0
建　設　業	▲ 14.8	▲ 20.6	▲ 24.3	−9.5	▲ 16.2	8.1
製　造　業	▲ 18.2	▲ 6.1	▲ 14.7	3.5	0.0	14.7
卸　売　業	▲ 40.0	▲ 54.3	▲ 6.1	33.9	▲ 27.3	−21.2
小　売　業	▲ 36.8	▲ 39.4	▲ 42.4	−5.6	▲ 53.2	−10.8
サービス業	2.8	▲ 25.7	▲ 31.4	−34.2	▲ 34.3	−2.9



3. 資金繰り

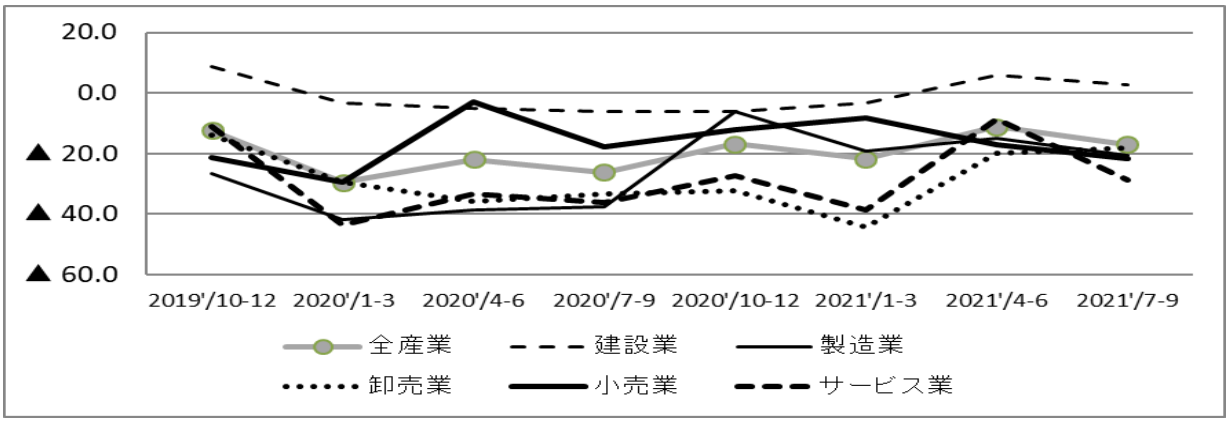
今期(7～9 月)の資金繰り DI 値は、全産業で▲17.0 と前期比で悪化した。

産業別では、サービス業、製造業、小売業、建設業が悪化した。特にサービス業はマイナス 20.1 ポイントと大幅に悪化した。一方、卸売業はわずかながら改善した。

来期の見通し(10～12 月)は、全産業で▲23.4 と今期比で悪化を見通している。

産業別では、建設業、小売業、卸売業、サービス業が悪化を見通す一方、製造業は改善を見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
		来期見通(7～9月)		前期比	来期見通(10～12月)	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)
全　産　業	▲ 11.1	▲ 14.0	▲ 17.0	-5.9	▲ 23.4	-6.4
建　設　業	5.9	▲ 3.0	2.7	-3.2	▲ 10.8	-13.5
製　造　業	▲ 15.1	▲ 12.1	▲ 20.6	-5.5	▲ 14.7	5.9
卸　売　業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 18.1	1.9	▲ 24.2	-6.1
小　売　業	▲ 17.2	▲ 17.1	▲ 21.8	-4.6	▲ 34.4	-12.6
サービス業	▲ 8.5	▲ 17.1	▲ 28.6	-20.1	▲ 34.2	-5.6



4. 受注残(未消化工事高)

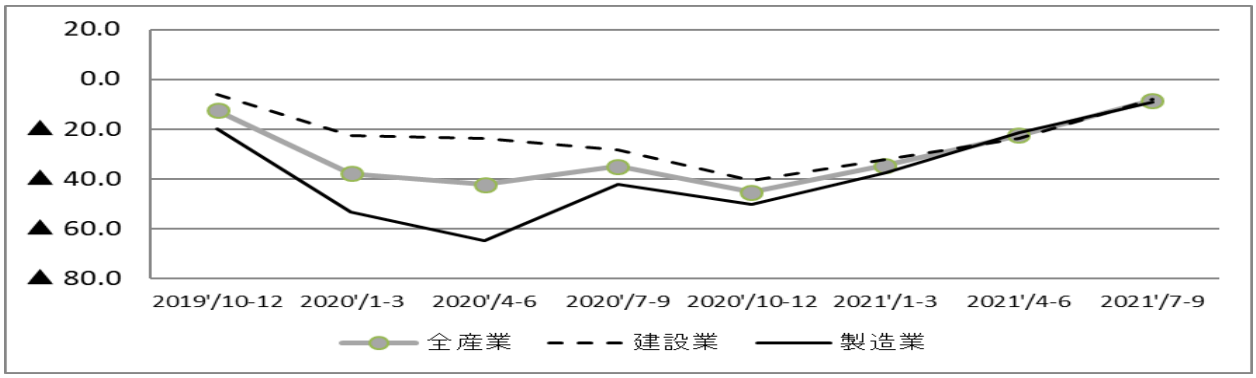
今期(7～9 月)の受注残 DI 値は、全産業で▲8.5 と前期比で改善した。

産業別では、建設業、製造業ともに改善した。

来期の見通し(10～12 月)は、全産業で▲18.6 と今期比で悪化を見通している。

産業別では、建設業、製造業とも悪化を見通している。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	
						今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	(D)−(C)
全　産　業	▲ 22.4	▲ 6.0	▲ 8.5	13.9	▲ 18.6	−10.1
建　設　業	▲ 23.5	▲ 2.9	▲ 8.1	15.4	▲ 21.6	−13.5
製　造　業	▲ 21.2	▲ 9.0	▲ 9.1	12.1	▲ 15.2	−6.1



5. 採算（経常利益）

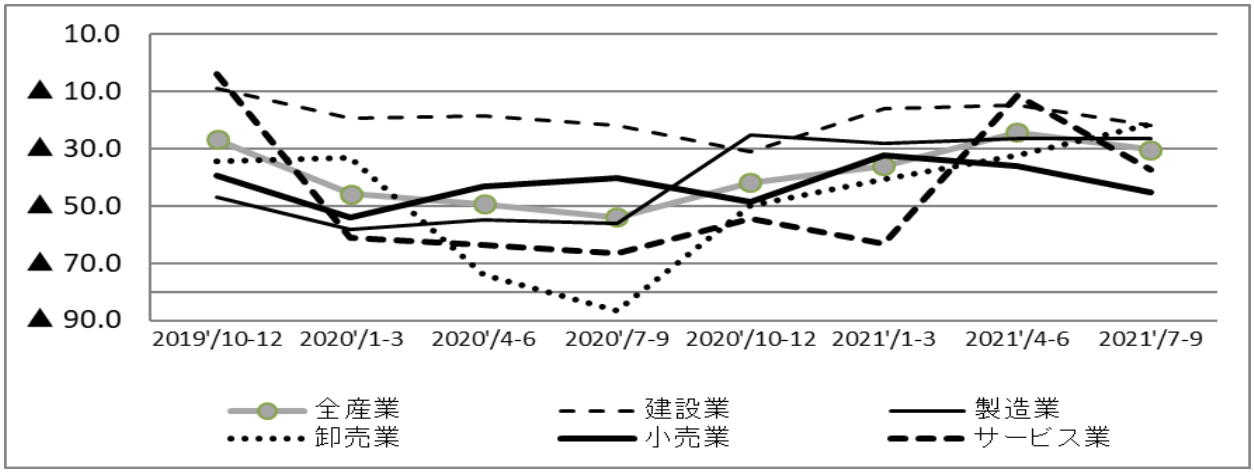
今期（7～9 月）の採算 DI 値は、全産業で▲30.2 と前期比で悪化した。

産業別では、サービス業、小売業、建設業、製造業で悪化した。特にサービス業はマイナス 25.7 ポイントと大幅に悪化した。一方、卸売業は改善した。

来期の見通し（10～12 月）は、全産業で▲32.6 と今期比でわずかながら悪化を見通している。

産業別では、小売業がほぼ横ばい、建設業、卸売業、サービス業が悪化を見通す一方、製造業は改善を見通している。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	
						今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	(D)−(C)
全　産　業	▲ 24.3	▲ 27.8	▲ 30.2	−5.9	▲ 32.6	−2.4
建　設　業	▲ 14.7	▲ 14.7	▲ 21.6	−6.9	▲ 32.4	−10.8
製　造　業	▲ 26.4	▲ 23.5	▲ 26.5	−0.1	▲ 14.7	11.8
卸　売　業	▲ 32.4	▲ 41.2	▲ 21.2	11.2	▲ 30.3	−9.1
小　売　業	▲ 36.1	▲ 36.1	▲ 45.4	−9.3	▲ 45.5	−0.1
サービス業	▲ 11.4	▲ 22.9	▲ 37.1	−25.7	▲ 40.0	−2.9



6. 従業員（含む臨時）

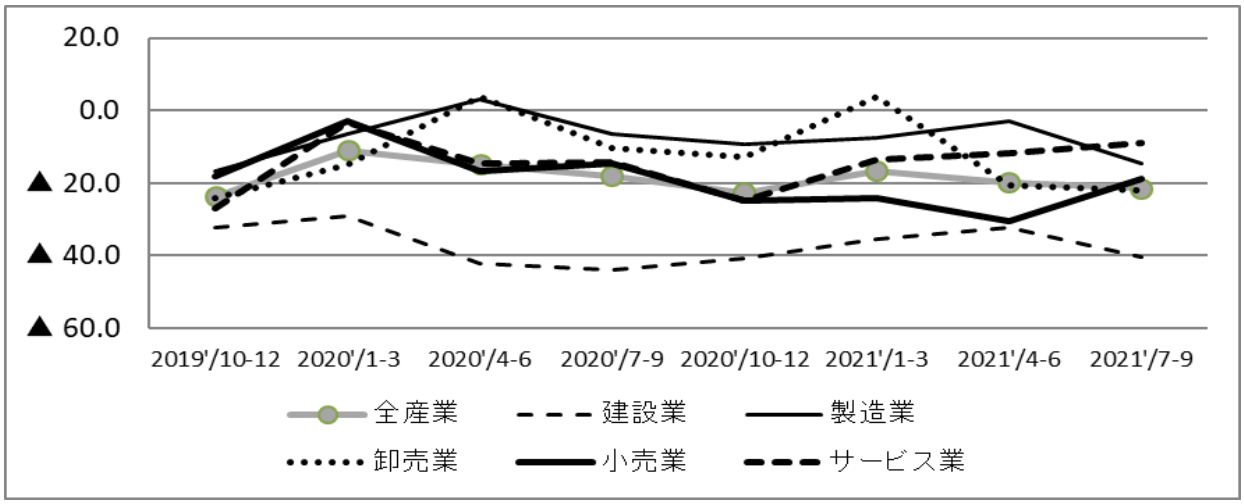
今期（7～9 月）の従業員 DI 値は、全産業で▲21.5 と前期比でわずかながら不足感を拡大した。

産業別では、製造業、建設業、卸売業は不足感を拡大する一方、小売業、サービス業は不足感を縮小した。

来期の見通し（10～12 月）は、全産業で▲22.9 と今期比でわずかながら不足感の悪大を見通している。

産業別では、建設業、小売業が横ばい、サービス業、製造業で不足感の拡大を見通す一方、卸売業で不足感の縮小を見通している。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	(D)−(C)
全産業	▲ 19.8	▲ 20.3	▲ 21.5	−1.7	▲ 22.9	−1.4
建設業	▲ 32.4	▲ 32.4	▲ 40.5	−8.1	▲ 40.5	0.0
製造業	▲ 3.0	▲ 11.8	▲ 14.7	−11.7	▲ 17.6	−2.9
卸売業	▲ 20.6	▲ 17.1	▲ 21.9	−1.3	▲ 18.2	3.7
小売業	▲ 30.5	▲ 28.6	▲ 18.7	11.8	▲ 18.7	0.0
サービス業	▲ 11.8	▲ 11.8	▲ 9.1	2.7	▲ 17.7	−8.6



Ⅱ. 産業別DI値

1. 建設業

今期（7～9 月）のDI値は、業況が▲13.5 と前期比で改善した。

項目別では、受注残が改善する一方、資金繰りがプラス幅を縮小、完成工事額、採算が悪化した。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「新規受注が伸び悩み、完成工事額減少【電気工事】、「未消化工事の増加、利益率の悪化」【塗装工事】とのコメントがあった。

来期の見通し（10～12 月）は、業況が▲28.5 と今期比で悪化を見通している。

項目別では、資金繰り、受注残、採算が悪化を見通す一方、完成工事額は改善を見通している。従業員は横ばいを見通している。

企業からは、「需要過剰で多くの工事を受けられない状態である。職人不足が痛手となっている」【鈑金工事】、「来期は完成する工事が少なく、採算が悪化する見込」【土木工事】とのコメントがあった。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	今期比 (D)−(C)
業況	▲ 20.6	▲ 15.1	▲ 13.5	7.1	▲ 28.5	−15.0
完成工事額	▲ 14.8	▲ 20.6	▲ 24.3	−9.5	▲ 16.2	8.1
資金繰り	5.9	▲ 3.0	2.7	−3.2	▲ 10.8	−13.5
受注残	▲ 23.5	▲ 2.9	▲ 8.1	15.4	▲ 21.6	−13.5
採算（経常利益）	▲ 14.7	▲ 14.7	▲ 21.6	−6.9	▲ 32.4	−10.8
従業員（含む臨時）	▲ 32.4	▲ 32.4	▲ 40.5	−8.1	▲ 40.5	0.0

2．製造業

今期（7～9 月）のDI値は、業況が▲20.6 と前期比でわずかながら改善した。

項目別では、採算がほぼ横ばい、受注残、売上額で改善する一方、資金繰りは悪化した。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「出荷量減のため、売上額は減少しているものの、建築物件への高価格帯の出荷が主となっているため、採算的には前期よりも改善傾向にある」【コンクリート】とのコメントがある一方、「オリンピックの影響で中断した工事があり、売り上げは減少。受注価格は変わらないが、材料価格が上昇した分、利益率は下がっている」【金属製品】とのコメントがあった。

来期の見通し（10～12 月）は、業況が▲3.0 と今期比で大幅な改善を見通している。

項目別では、売上額、採算、資金繰りで改善を見通す一方、受注残で悪化を見通している。従業員はわずかながら不足感の拡大を見通している。

企業からは「鋼材費を含め副資材の価格が高騰し、売上額を押し上げる見通し」【金属製品】とのコメントがある一方、「11 月から観光 OFF シーズンになる。今後の GOTO キャンペーンに期待したいが、来年春になるのではないか」【乾麺】とのコメントがあった。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	今期比 (D)−(C)
業況	▲ 21.2	▲ 15.1	▲ 20.6	0.6	▲ 3.0	17.6
売上額	▲ 18.2	▲ 6.1	▲ 14.7	3.5	0.0	14.7
資金繰り	▲ 15.1	▲ 12.1	▲ 20.6	−5.5	▲ 14.7	5.9
受注残	▲ 21.2	▲ 9.0	▲ 9.1	12.1	▲ 15.2	−6.1
採算（経常利益）	▲ 26.4	▲ 23.5	▲ 26.5	−0.1	▲ 14.7	11.8
従業員（含む臨時）	▲ 3.0	▲ 11.8	▲ 14.7	−11.7	▲ 17.6	−2.9

3．卸売業

今期（7～9 月）のDI値は、業況が▲15.2 と前期比で大幅に改善した。

項目別では、すべての項目で改善した。特に売上額はプラス 33.9 ポイントと大幅に改善した。従業員はわずかながら不足感を拡大した。

企業からは、「値上げに伴う売上増加」【食料・飲料】とのコメントがある一方、「仕入価格の値上げとコロナなのかウッドショックによるものなのか売上が伸びない」【左官資材】とのコメントがあった。

来期の見通し（10～12 月）は、業況が▲25.0 と今期比で悪化を見通している。

項目別では、すべての項目で悪化を見通している。特に売上額はマイナス 21.2 ポイントの大幅な悪化を見通している。従業員は不足感の縮小を見通している。

企業からは、「コロナの影響がまだかなりありそう」【電気事務機械器具】、「大変厳しい状態が続くと思う」【家庭用電気機械器具】、「コロナの発生状況次第であり、予想は難しい」【食肉】とのコメントがあった。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	今期比 (D)−(C)
業況	▲ 35.3	▲ 41.2	▲ 15.2	20.1	▲ 25.0	−9.8
売上額	▲ 40.0	▲ 54.3	▲ 6.1	33.9	▲ 27.3	−21.2
資金繰り	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 18.1	1.9	▲ 24.2	−6.1
採算（経常利益）	▲ 32.4	▲ 41.2	▲ 21.2	11.2	▲ 30.3	−9.1
従業員（含む臨時）	▲ 20.6	▲ 17.1	▲ 21.9	−1.3	▲ 18.2	3.7

4. 小売業

今期（7～9 月）のDI値は、業況が▲54.6 と前期比で大幅に悪化し、厳しい状況となった。

項目別では、すべての項目で悪化した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「お盆以降のコロナ感染者増加や気温低下なども影響し、8月中旬から売上が大きく減少し、前年実績を割り込んだ」【婦人靴】、「昨年はコロナ感染に対する支援事業（ステイキャンペーンや飲食店支援策）が充実し、売上を確保できたが、今年は同様な支援策がなく、売上減少」【食料品】とのコメントがあった。

来期の見通し（10～12 月）は、業況が今期と同数値を見通している。

項目別では、今期に引き続きすべての項目で悪化を見通している。従業員は横ばいを見通している。

企業からは、「原材料の値上がりにより業況が悪化する見込み」【菓子】、「コロナ感染者数の減少とワクチン接種率の上昇でやや期待感もあるが、今のところ全体的に慎重ムードが高く、宴会が開催されていない。忘年会等の需要も完全回復は難しいと思われる」【食料品】とのコメントがあった。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	今期比 (D)−(C)
業況	▲ 30.5	▲ 34.3	▲ 54.6	−24.1	▲ 54.6	0.0
売上額	▲ 36.8	▲ 39.4	▲ 42.4	−5.6	▲ 53.2	−10.8
資金繰り	▲ 17.2	▲ 17.1	▲ 21.8	−4.6	▲ 34.4	−12.6
採算（経常利益）	▲ 36.1	▲ 36.1	▲ 45.4	−9.3	▲ 45.5	−0.1
従業員（含む臨時）	▲ 30.5	▲ 28.6	▲ 18.7	11.8	▲ 18.7	0.0

5. サービス業

今期（7～9 月）のDI値は、業況が▲33.3 と前期比で悪化した。

項目別では、すべての項目で大幅に悪化した。従業員はわずかながら不足感を縮小した。

企業からは、「今年は前年よりひどく、100 年商売をやっているが、史上最低の売上である」【食堂】、「会食に対しての規制により、お客様の利用はほぼ無い状況が続いている」【ホテル】とのコメントがあった。

来期の見通し（10～12 月）は、業況は▲37.2 と今期比で悪化を見通している。

項目別では、今期に引き続きすべての項目で悪化を見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは「前年はプレミアム飲食券、地域商品券等の支援により、売上額をある程度確保できたが、今年は GoTo EAT が 11 月で終了となるため、前年の売上は見込めない」【冠婚葬祭】とのコメントがある一方、「前年同期比で約 7%増加となる見込み〔亜鉛鉱・石炭の増加」【運輸】、「今期とほぼ同じと思われるが、緊急事態宣言が解除されたので少しは期待している」【写真】とのコメントがあった。

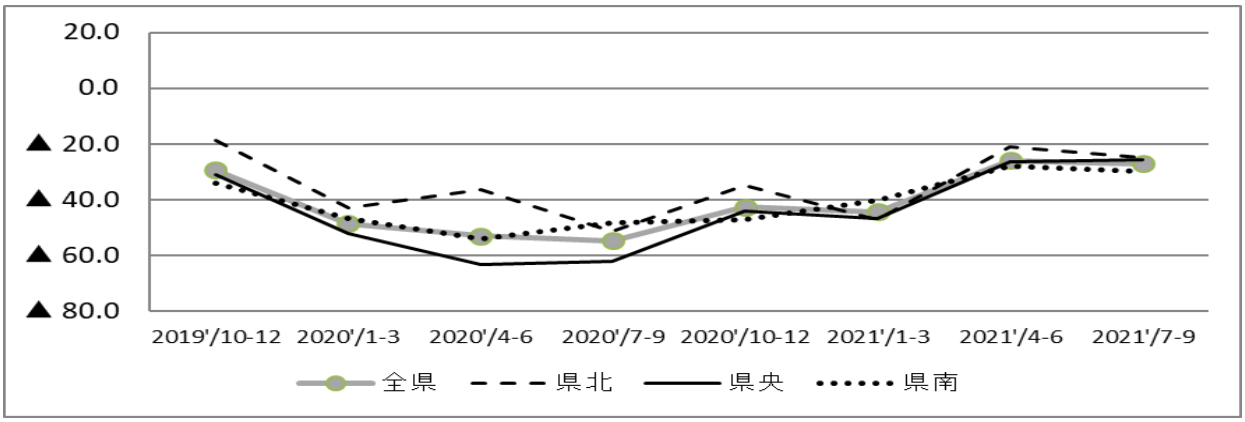
	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	(D)−(C)
業況	▲ 20.6	▲ 37.1	▲ 33.3	−12.7	▲ 37.2	−3.9
売上額	2.8	▲ 25.7	▲ 31.4	−34.2	▲ 34.3	−2.9
資金繰り	▲ 8.5	▲ 17.1	▲ 28.6	−20.1	▲ 34.2	−5.6
採算（経常利益）	▲ 11.4	▲ 22.9	▲ 37.1	−25.7	▲ 40.0	−2.9
従業員（含む臨時）	▲ 11.8	▲ 11.8	▲ 9.1	2.7	▲ 17.7	−8.6

Ⅲ. 地域別DI値

1. 業況

今期（7～9 月）のDI値は、前期比で県北、県南が悪化、県央がわずかながら改善した。
来期の見通し（10～12 月）は、今期比で全域が悪化を見通している。

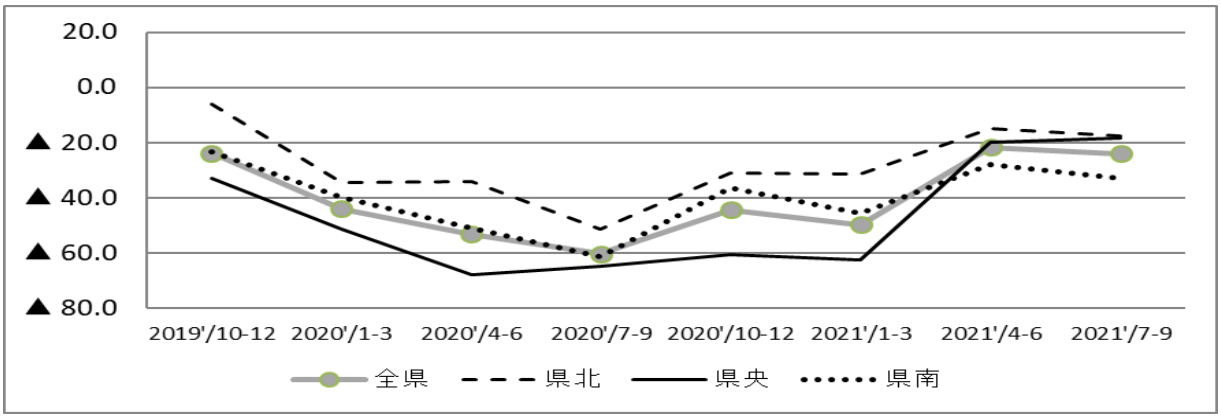
	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	(D)−(C)
全　県	▲ 25.8	▲ 28.8	▲ 27.0	−1.2	▲ 29.8	−2.8
県　北	▲ 21.0	▲ 18.4	▲ 25.0	−4.0	▲ 30.0	−5.0
県　央	▲ 26.4	▲ 38.3	▲ 25.4	1.0	▲ 25.8	−0.4
県　南	▲ 27.7	▲ 25.0	▲ 29.8	−2.1	▲ 33.3	−3.5



2. 売上額・完成工事額

今期（7～9 月）のDI値は、前期比で県南、県北で悪化、県央はわずかながら改善した。
来期見通し（10～12 月）は、今期比で県北、県央が悪化を見通す一方、県南はわずかながら改善を見通している。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	(D)−(C)
全　県	▲ 21.7	▲ 29.7	▲ 23.9	−2.2	▲ 25.9	−2.0
県　北	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 17.5	−2.5	▲ 25.7	−8.2
県　央	▲ 20.0	▲ 37.2	▲ 18.4	1.6	▲ 20.3	−1.9
県　南	▲ 27.7	▲ 24.6	▲ 32.8	−5.1	▲ 31.4	1.4

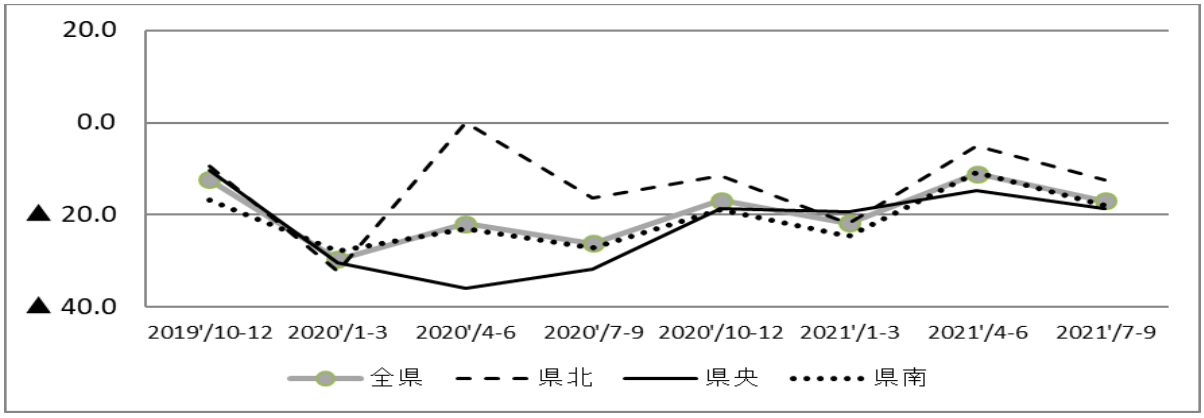


3. 資金繰り

今期（7～9 月）のDI値は、前期比で全域が悪化した。

来期見通し（10～12 月）は、今期に引き続き全域が悪化を見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	今期比 (D)－(C)
全　県	▲ 11.1	▲ 14.0	▲ 17.0	−5.9	▲ 23.4	−6.4
県　北	▲ 5.1	▲ 7.7	▲ 12.5	−7.4	▲ 20.0	−7.5
県　央	▲ 14.7	▲ 22.1	▲ 18.7	−4.0	▲ 25.0	−6.3
県　南	▲ 10.8	▲ 9.2	▲ 17.9	−7.1	▲ 23.9	−6.0

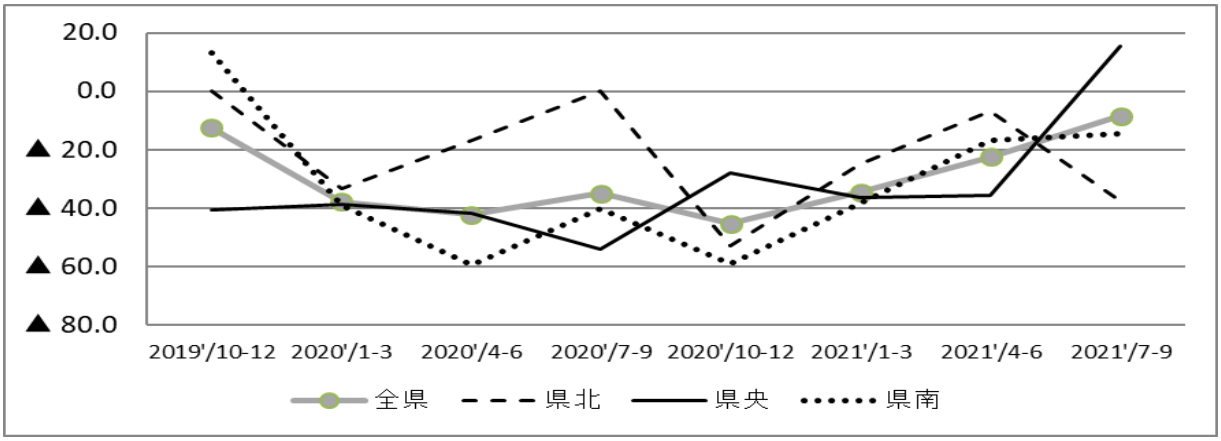


4. 受注残（未消化工事高）

今期（7～9 月）のDI値は、前期比で、県央、県南が改善した。特に県央はプラス 51.1 ポイントの大幅な改善となった。一方、県北はマイナス 30.8 ポイントの大幅な悪化となった。

来期見通し（10～12 月）は、今期比で県北が横ばい、県南、県央が悪化を見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	今期比 (D)－(C)
全　県	▲ 22.4	▲ 6.0	▲ 8.5	13.9	▲ 18.6	−10.1
県　北	▲ 6.7	▲ 13.4	▲ 37.5	−30.8	▲ 37.5	0.0
県　央	▲ 35.7	▲ 10.7	15.4	51.1	7.7	−7.7
県　南	▲ 16.6	4.2	▲ 14.3	2.3	▲ 32.2	−17.9

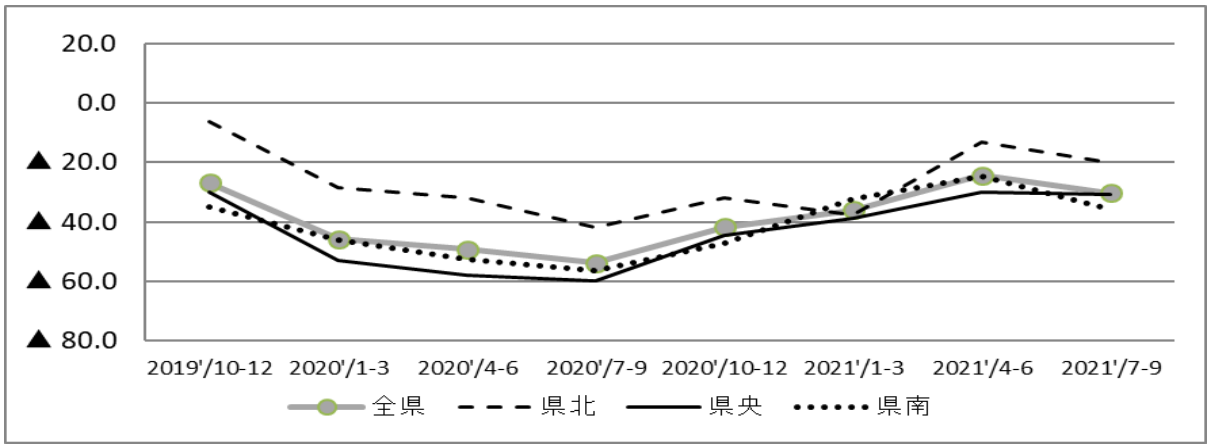


5. 採算（経常利益）

今期（7～9 月）のDI値は、前期比で全域が悪化した

来期見通し（10～12 月）は、今期比で県北、県央が悪化を見通す一方、県南はわずかながら改善を見通している。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	今期比 (D)−(C)
全　県	▲ 24.3	▲ 27.8	▲ 30.2	−5.9	▲ 32.6	−2.4
県　北	▲ 13.2	▲ 12.8	▲ 20.0	−6.8	▲ 27.5	−7.5
県　央	▲ 30.0	▲ 37.7	▲ 30.8	−0.8	▲ 33.8	−3.0
県　南	▲ 24.6	▲ 26.1	▲ 35.8	−11.2	▲ 34.3	1.5

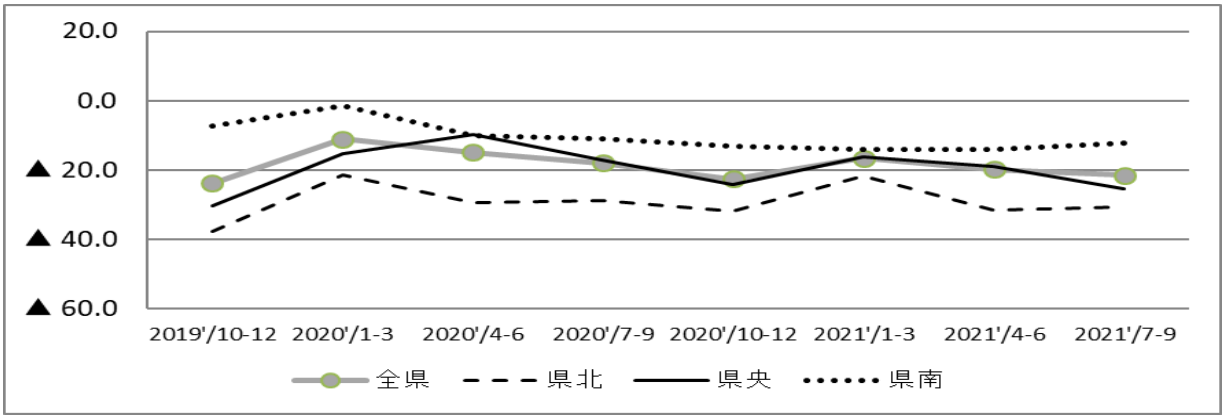


6. 従業員（含む臨時）

今期（7～9 月）のDI値は、前期比で県央が不足感を拡大する一方、県南、県北はわずかながら不足感を縮小した。

来期見通し（10～12 月）は、今期比で県南が不足感の拡大を見通す一方、県北、県央はわずかながら不足感の縮小を見通している。

	前期(4−6月)		今期(7−9月)			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通（10～12月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	今期比 (D)−(C)
全　県	▲ 19.8	▲ 20.3	▲ 21.5	−1.7	▲ 22.9	−1.4
県　北	▲ 31.6	▲ 25.6	▲ 30.7	0.9	▲ 30.0	0.7
県　央	▲ 18.8	▲ 26.1	▲ 25.4	−6.6	▲ 25.0	0.4
県　南	▲ 13.9	▲ 11.0	▲ 12.1	1.8	▲ 16.7	−4.6



Ⅳ. 産業別設備投資

全産業における今期（7～9 月）の設備投資については、「実施した」とする企業は 54 件で、前期比で 11 件増加した。

産業別では、「実施した」とする中で最も多かったのは、建設業（16 件）、次いで製造業（12 件）、サービス業（11 件）の順となっている。

全産業で、設備投資内容で最も多かったのは、「車両・運搬具」（25 件）、次いで「機械・設備・倉庫」（14 件）、「建物・工場・店舗」（11 件）の順となっている。

来期（10～12 月）の計画では、全産業で「計画している」としたのは 36 件で、今期比で 18 件減少している。

産業別では、「計画している」とした中で最も多かったのは、サービス業（11 件）、次いで建設業、製造業（ともに 8 件）、卸売業（5 件）の順となっている。

全産業で、設備投資内容で最も多かったのは、「車両・運搬具」（13 件）、「OA 機器」（11 件）、「建物・工場・店舗」（7 件）の順となっている。

設備投資状況　（件数）

	前期（4～6月）				今期（7～9月）					
			来期の計画(7-9月)					来期の計画(10-12月)		
	実施した (A)	実施しない	計画している (B)	計画していない	実施した (C)	実施しない	前期比 (C-A)	計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
全　産　業	43	133	51	125	54	118	11	36	136	▲ 18
建　設　業	10	24	11	23	16	21	6	8	29	▲ 8
製　造　業	10	24	15	19	12	22	2	8	26	▲ 4
卸　売　業	6	29	6	29	7	26	1	5	28	▲ 2
小　売　業	6	32	8	30	8	25	2	4	29	▲ 4
サービス業	11	24	11	24	11	24	0	11	24	0

設備内容（複数回答）　（件数）

	全産業		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
①土地	2	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0
②建物・工場・店舗	11	7	3	1	2	1	1	1	2	2	3	2
③機械・設備・倉庫	14	4	1	0	9	3	1	0	2	0	1	1
④車両・運搬具	25	13	8	1	3	4	4	2	4	1	6	5
⑤付帯施設	9	5	1	2	2	0	2	1	1	1	3	1
⑥OA機器	9	11	5	4	1	2	2	3	0	0	1	2
⑦福利厚生施設	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
⑧その他	3	3	0	1	0	1	0	0	1	1	2	0
合　　計	75	44	19	9	18	11	11	7	10	6	17	11

Ⅴ. 地域別設備投資

今期（7～9 月）の設備投資について、「実施した」企業は、前期比で全域が増加した。

設備投資で最も多いのは、県北で「車両・運搬具」（5 件）、県央で「車両・運搬具」（11 件）、県南で「車両・運搬具」（9 件）となった。

来期（10～12 月）の設備投資について、「計画している」企業は、今期比で全域が減少を見通している。

「計画している」企業の設備内容で最も多かったのは、県北で「建物・工場・店舗」「OA 機器」（ともに 3 件）、県央で「車両・運搬具」(8 件)、県南で「OA 機器」（4 件)となっている。

設備投資状況　（件数）

	前期（4～6月）				今期（7～9月）					
			来期の計画(1-3月)					来期の計画(10-12月)		
	実施した (A)	実施しない	計画している (B)	計画していない	実施した (C)	実施しない	前期比 (C-A)	計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
全　体	43	133	51	125	54	118	11	36	136	▲ 18
県　北	10	30	10	30	14	26	4	7	33	▲ 7
県　央	21	50	28	43	22	43	1	18	47	▲ 4
県　南	12	53	13	52	18	49	6	11	56	▲ 7

設備内容（複数回答）　（件数）

	全県		県北		県央		県南	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
①土地	2	1	1	0	2	0	0	1
②建物・工場・店舗	11	7	4	3	3	2	5	3
③機械・設備・倉庫	14	4	4	2	7	2	4	0
④車両・運搬具	25	13	5	2	11	8	9	3
⑤付帯施設	9	5	2	1	7	4	0	0
⑥OA機器	9	11	2	3	4	4	2	4
⑦福利厚生施設	2	0	0	0	1	0	1	0
⑧その他	3	3	1	0	1	1	1	2
合　　計	75	44	19	11	36	21	22	13

Ⅵ. 経営上の問題点

産業別における「経営上の問題点」は、卸売業、小売業、サービス業が「需要の停滞」を第1位に挙げている。建設業は「材料価格の上昇」、製造業は「原材料価格の上昇」を第1位に挙げている。

2位以下の項目では、建設業が「熟練技術者の確保難」「下請業者の確保難」、製造業が「人件費の増加」「生産設備の不足・老朽化」、卸売業が「仕入単価の上昇」「販売単価の低下・上昇難」、小売業が「消費者ニーズの変化への対応」、サービス業が「店舗・施設の狭隘・老朽化」「材料等仕入単価の上昇」を問題点として挙げており、需要の停滞による売上の伸び悩みや人材不足、生産設備の不足・老朽化、店舗・施設の狭隘・老朽化、人件費の増加、仕入単価の上昇、消費者ニーズの変化への対応等が経営課題となっていることがうかがえる。

	1位		2位		3位	
建設業	材料価格の上昇		熟練技術者の確保難		下請業者の確保難	
	24.2%	8件	17.6%	6件	16.7%	5件
製造業	原材料価格の上昇		人件費の増加		生産設備の不足・老朽化 原材料価格の上昇	
	28.1%	9件	15.6%	5件	17.9%	5件
卸売業	需要の停滞		仕入単価の上昇		販売単価の低下・上昇難	
	31.3%	10件	29.0%	9件	21.4%	6件
小売業	需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		消費者ニーズの変化への対応	
	30.0%	9件	20.0%	6件	19.2%	5件
サービス業	需要の停滞		需要の停滞		店舗・施設の狭隘・老朽化 材料等仕入単価の上昇	
	25.0%	8件	17.9%	5件	14.3%	4件

※　%は 1 位、2 位、3 位それぞれの回答数（＝100%）の割合を示したもの。

参考：1～3 位を累計した場合

建設業	材料価格の上昇 熟練技術者の確保難		従業員の確保難		下請業者の確保難 官公需要の停滞	
	14.1%	14件	11.1%	11件	10.1%	10件
製造業	原材料価格の上昇		需要の停滞 熟練技術者の確保難		製品ニーズの変化への対応 従業員の確保難	
	18.5%	17件	12.0%	11件	9.8%	9件
卸売業	需要の停滞 仕入単価の上昇		販売単価の低下・上昇難		店舗・施設の狭隘・老朽化	
	20.9%	19件	18.7%	17件	8.8%	8件
小売業	消費者ニーズの変化への対応		需要の停滞		購買力の他地域への流出 仕入単価の上昇	
	18.6%	16件	14.0%	12件	11.6%	10件
サービス業	需要の停滞		従業員の確保難		利用者ニーズの変化への対応	
	17.1%	14件	13.4%	11件	11.0%	9件

※　%は 1～3 位までの総回答数（＝100%）の割合を示したもの。

【付帯調査】
◎県の最低賃金引き上げの影響に関する調査

Ⅶ. 最低賃金引き上げ後の経営への影響

・経営への影響について聞いたところ、回答のあった166社中、①「影響がある」が46社27.7%、②「影響はない」が120社72.3%となった。

選　　択　　肢	社数	構成比（%）
① 影響がある	46	27.7
② 影響はない	120	72.3
合　計	166	100.0

Ⅷ. 最低賃金引き上げ後の対応または検討事項(複数回答)

・質問Ⅶで①「影響がある」と回答した46社に最低賃金引き上げ後の対応または検討事項について聞いたところ、⑦「一時金（賞与等）を削減する」が18件39.1%、次いで⑥「非正規社員の残業時間・シフトを削減する」の12件26.1%、⑭「設備投資の抑制等」の11件23.9%の順となった。

選　　択　　肢	件数	構成比（%）
①正社員を削減する	5	10.9
②非正規社員を削減する	6	13.0
③正社員の採用を抑制する	9	19.6
④非正規社員の採用を抑制する	7	15.2
⑤正社員の残業時間を削減する	10	21.7
⑥非正規社員の残業時間・シフトを削減する	12	26.1
⑦一時金（賞与等）を削減する	18	39.1
⑧役員報酬を削減する	7	15.2
⑨福利厚生費を削減する	3	6.5
⑩非正規社員の正社員への転換を抑制	0	0.0
⑪採用を正社員から非正規に切り替え	3	6.5
⑫請負・派遣労働者等外部人材を活用	3	6.5
⑬人件費の安い海外に事業拠点を移転	0	0.0
⑭設備投資の抑制等	11	23.9
⑮社員への教育訓練投資を抑制	1	2.2
⑯事業規模を縮小	1	2.2
⑰その他	5	10.9
⑱特になし	10	21.7
⑲打つ手なし	1	2.2

○その他のコメント

・製造業
　・生産性の効率化、高付加価値商品への転化をはかる【水産物】
・卸売業
　・パート社員のさらなる頑張りを期待する【雑貨】
・サービス業
　・賃金を上昇させる分人数を抑制する【リネンサプライ】
　・得意先との請負業務代金の値上げ【ビルメンテナンス】
　・来春までに高卒初任給分を引き上げることを検討している【運輸業】

Ⅸ．最低賃金引き上げ後の対応に必要な支援策（複数回答）

・最低賃金引き上げ後の対応に必要な支援策について聞いたところ、回答のあった 166 社中、①「税負担等の軽減」が 79 件 47.6%、次いで②「助成金拡充・使い勝手の向上」の 46 件 27.7%、⑩「特になし」の 44 件 26.5%の順となった。

選　　択　　肢	件数	構成比（%）
①税負担等の軽減	79	47.6
②助成金拡充・使い勝手の向上	46	27.7
③取引価格の適正化・円滑な価格転嫁	39	23.5
④生産性向上に向けた設備投資支援	36	21.7
⑤生産性向上に向けた相談支援	4	2.4
⑥人材育成、教育への支援	36	21.7
⑦公的な金融支援の拡充	31	18.7
⑧賃上げした企業など好事例の周知	10	6.0
⑨その他	2	1.2
⑩特になし	44	26.5

○その他のコメント

・建設業
　・社会保険の扶養条件（全額）の引き上げ【造園工事】
・製造業
　・政府の補助金・助成金・支援金等の実施【印刷業】

Ⅹ．最低賃金引き上げに対する意見

・製造業
　・都市部と地方また大企業と中小企業で大きな違いがあるのに同一視した施策には疑問がある【水産物】
・卸売業
　・コロナの影響で道の駅や温泉施設等の売上が減少している中、県は飲食業、ホテル、みやげ物屋には支援しているが、我々地方問屋（菓子、飲料水）にも目を向けてほしい【雑貨】

Ⅺ. 総括表

秋田県内中小企業景況調査
全産業別景気判断比較表（DI値）
（第2四半期：2021年7月～9月）

（▲マイナス）

	業況						売上額・完成工事額						資金繰り					
	前期（4～6月）		今期（7～9月）				前期（4～6月）		今期（7～9月）				前期（4～6月）		今期（7～9月）			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)
全産業	▲ 25.8	▲ 28.8	▲ 27.0	-1.2	▲ 29.8	-2.8	▲ 21.7	▲ 29.7	▲ 23.9	-2.2	▲ 25.9	-2.0	▲ 11.1	▲ 14.0	▲ 17.0	-5.9	▲ 23.4	-6.4
建設業	▲ 20.6	▲ 15.1	▲ 13.5	7.1	▲ 28.5	-15.0	▲ 14.8	▲ 20.6	▲ 24.3	-9.5	▲ 16.2	8.1	5.9	▲ 3.0	2.7	-3.2	▲ 10.8	-13.5
製造業	▲ 21.2	▲ 15.1	▲ 20.6	0.6	▲ 3.0	17.6	▲ 18.2	▲ 6.1	▲ 14.7	3.5	0.0	14.7	▲ 15.1	▲ 12.1	▲ 20.6	-5.5	▲ 14.7	5.9
卸売業	▲ 35.3	▲ 41.2	▲ 15.2	20.1	▲ 25.0	-9.8	▲ 40.0	▲ 54.3	▲ 6.1	33.9	▲ 27.3	-21.2	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 18.1	1.9	▲ 24.2	-6.1
小売業	▲ 30.5	▲ 34.3	▲ 54.6	-24.1	▲ 54.6	0.0	▲ 36.8	▲ 39.4	▲ 42.4	-5.6	▲ 53.2	-10.8	▲ 17.2	▲ 17.1	▲ 21.8	-4.6	▲ 34.4	-12.6
サービス業	▲ 20.6	▲ 37.1	▲ 33.3	-12.7	▲ 37.2	-3.9	2.8	▲ 25.7	▲ 31.4	-34.2	▲ 34.3	-2.9	▲ 8.5	▲ 17.1	▲ 28.6	-20.1	▲ 34.2	-5.6

	受注残（未消化工事高）						採算（経常利益）						従業員（含む臨時）					
	前期（4～6月）		今期（7～9月）				前期（4～6月）		今期（7～9月）				前期（4～6月）		今期（7～9月）			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)
全産業	▲ 22.4	▲ 6.0	▲ 8.5	13.9	▲ 18.6	-10.1	▲ 24.3	▲ 27.8	▲ 30.2	-5.9	▲ 32.6	-2.4	▲ 19.8	▲ 20.3	▲ 21.5	-1.7	▲ 22.9	-1.4
建設業	▲ 23.5	▲ 2.9	▲ 8.1	15.4	▲ 21.6	-13.5	▲ 14.7	▲ 14.7	▲ 21.6	-6.9	▲ 32.4	-10.8	▲ 32.4	▲ 32.4	▲ 40.5	-8.1	▲ 40.5	0.0
製造業	▲ 21.2	▲ 9.0	▲ 9.1	12.1	▲ 15.2	-6.1	▲ 26.4	▲ 23.5	▲ 26.5	-0.1	▲ 14.7	11.8	▲ 3.0	▲ 11.8	▲ 14.7	-11.7	▲ 17.6	-2.9
卸売業	—	—	—	—	—	—	▲ 32.4	▲ 41.2	▲ 21.2	11.2	▲ 30.3	-9.1	▲ 20.6	▲ 17.1	▲ 21.9	-1.3	▲ 18.2	3.7
小売業	—	—	—	—	—	—	▲ 36.1	▲ 36.1	▲ 45.4	-9.3	▲ 45.5	-0.1	▲ 30.5	▲ 28.6	▲ 18.7	11.8	▲ 18.7	0.0
サービス業	—	—	—	—	—	—	▲ 11.4	▲ 22.9	▲ 37.1	-25.7	▲ 40.0	-2.9	▲ 11.8	▲ 11.8	▲ 9.1	2.7	▲ 17.7	-8.6

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。
：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（業種別比較表）

（第2四半期：2021年7月～9月）

1．今期の状況

業種 ＼ 項目		業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	20	84	66	36	59	77	11	120	40	13	38	19	18	84	70	11	110	47
	%	11.8	49.4	38.8	20.9	34.3	44.8	6.4	70.2	23.4	18.6	54.3	27.1	10.5	48.8	40.7	6.5	65.5	28.0
	DI	▲ 27.0			▲ 23.9			▲ 17.0			▲ 8.5			▲ 30.2			▲ 21.5		
建設業	実数	4	24	9	6	16	15	3	32	2	9	16	12	2	25	10	0	22	15
	%	10.8	64.9	24.3	16.2	43.2	40.5	8.1	86.5	5.4	24.3	43.2	32.4	5.4	67.6	27.0	0.0	59.5	40.5
	DI	▲ 13.5			▲ 24.3			2.7			▲ 8.1			▲ 21.6			▲ 40.5		
製造業	実数	6	15	13	9	11	14	2	23	9	4	22	7	6	13	15	5	19	10
	%	17.6	44.1	38.2	26.5	32.4	41.2	5.9	67.6	26.5	12.1	66.7	21.2	17.6	38.2	44.1	14.7	55.9	29.4
	DI	▲ 20.6			▲ 14.7			▲ 20.6			▲ 9.1			▲ 26.5			▲ 14.7		
卸売業	実数	7	14	12	10	11	12	2	23	8				5	16	12	0	25	7
	%	21.2	42.4	36.4	30.3	33.3	36.4	6.1	69.7	24.2				15.2	48.5	36.4	0.0	78.1	21.9
	DI	▲ 15.2			▲ 6.1			▲ 18.1						▲ 21.2			▲ 21.9		
小売業	実数	1	13	19	4	11	18	2	21	9				2	14	17	2	22	8
	%	3.0	39.4	57.6	12.1	33.3	54.5	6.3	65.6	28.1				6.1	42.4	51.5	6.3	68.8	25.0
	DI	▲ 54.6			▲ 42.4			▲ 21.8						▲ 45.4			▲ 18.7		
サービス業	実数	2	18	13	7	10	18	2	21	12				3	16	16	4	22	7
	%	6.1	54.5	39.4	20.0	28.6	51.4	5.7	60.0	34.3				8.6	45.7	45.7	12.1	66.7	21.2
	DI	▲ 33.3			▲ 31.4			▲ 28.6						▲ 37.1			▲ 9.1		

※　DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（業種別比較表）

（第2四半期：2021年7月～9月）

２．来期の見通し

業種 ＼ 項目		業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	17	84	67	28	70	72	7	117	47	10	37	23	15	86	71	10	111	49
	%	10.1	50.0	39.9	16.5	41.2	42.4	4.1	68.4	27.5	14.3	52.9	32.9	8.7	50.0	41.3	5.9	65.3	28.8
	DI	▲ 29.8			▲ 25.9			▲ 23.4			▲ 18.6			▲ 32.6			▲ 22.9		
建設業	実数	1	23	11	5	21	11	1	31	5	6	17	14	0	25	12	0	22	15
	%	2.9	65.7	31.4	13.5	56.8	29.7	2.7	83.8	13.5	16.2	45.9	37.8	0.0	67.6	32.4	0.0	59.5	40.5
	DI	▲ 28.5			▲ 16.2			▲ 10.8			▲ 21.6			▲ 32.4			▲ 40.5		
製造業	実数	9	14	10	11	11	11	3	23	8	4	20	9	7	15	12	4	20	10
	%	27.3	42.4	30.3	33.3	33.3	33.3	8.8	67.6	23.5	12.1	60.6	27.3	20.6	44.1	35.3	11.8	58.8	29.4
	DI	▲ 3.0			0.0			▲ 14.7			▲ 15.2			▲ 14.7			▲ 17.6		
卸売業	実数	4	16	12	6	12	15	2	21	10				4	15	14	0	27	6
	%	12.5	50.0	37.5	18.2	36.4	45.5	6.1	63.6	30.3				12.1	45.5	42.4	0.0	81.8	18.2
	DI	▲ 25.0			▲ 27.3			▲ 24.2						▲ 30.3			▲ 18.2		
小売業	実数	1	13	19	1	13	18	0	21	11				1	16	16	3	20	9
	%	3.0	39.4	57.6	3.1	40.6	56.3	0.0	65.6	34.4				3.0	48.5	48.5	9.4	62.5	28.1
	DI	▲ 54.6			▲ 53.2			▲ 34.4						▲ 45.5			▲ 18.7		
サービス業	実数	2	18	15	5	13	17	1	21	13				3	15	17	3	22	9
	%	5.7	51.4	42.9	14.3	37.1	48.6	2.9	60.0	37.1				8.6	42.9	48.6	8.8	64.7	26.5
	DI	▲ 37.2			▲ 34.3			▲ 34.2						▲ 40.0			▲ 17.7		

※　DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査
地域別景気判断比較表（DI値）
（第2四半期：2021年7月～9月）

（▲マイナス）

	業況						売上額・完成工事額						資金繰り					
	前期（4～6月）		今期（7～9月）				前期（4～6月）		今期（7～9月）				前期（4～6月）		今期（7～9月）			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)
全県	▲ 25.8	▲ 28.8	▲ 27.0	-1.2	▲ 29.8	-2.8	▲ 21.7	▲ 29.7	▲ 23.9	-2.2	▲ 25.9	-2.0	▲ 11.1	▲ 14.0	▲ 17.0	-5.9	▲ 23.4	-6.4
県北	▲ 21.0	▲ 18.4	▲ 25.0	-4.0	▲ 30.0	-5.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 17.5	-2.5	▲ 25.7	-8.2	▲ 5.1	▲ 7.7	▲ 12.5	-7.4	▲ 20.0	-7.5
県央	▲ 26.4	▲ 38.3	▲ 25.4	1.0	▲ 25.8	-0.4	▲ 20.0	▲ 37.2	▲ 18.4	1.6	▲ 20.3	-1.9	▲ 14.7	▲ 22.1	▲ 18.7	-4.0	▲ 25.0	-6.3
県南	▲ 27.7	▲ 25.0	▲ 29.8	-2.1	▲ 33.3	-3.5	▲ 27.7	▲ 24.6	▲ 32.8	-5.1	▲ 31.4	1.4	▲ 10.8	▲ 9.2	▲ 17.9	-7.1	▲ 23.9	-6.0

	受注残（未消化工事高）						採算（経常利益）						従業員（含む臨時）					
	前期（4～6月）		今期（7～9月）				前期（4～6月）		今期（7～9月）				前期（4～6月）		今期（7～9月）			
		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比		来期見通（7～9月）		前期比	来期見通	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	(D)－(C)
全県	▲ 22.4	▲ 6.0	▲ 8.5	13.9	▲ 18.6	-10.1	▲ 24.3	▲ 27.8	▲ 30.2	-5.9	▲ 32.6	-2.4	▲ 19.8	▲ 20.3	▲ 21.5	-1.7	▲ 22.9	-1.4
県北	▲ 6.7	▲ 13.4	▲ 37.5	-30.8	▲ 37.5	0.0	▲ 13.2	▲ 12.8	▲ 20.0	-6.8	▲ 27.5	-7.5	▲ 31.6	▲ 25.6	▲ 30.7	0.9	▲ 30.0	0.7
県央	▲ 35.7	▲ 10.7	15.4	51.1	7.7	-7.7	▲ 30.0	▲ 37.7	▲ 30.8	-0.8	▲ 33.8	-3.0	▲ 18.8	▲ 26.1	▲ 25.4	-6.6	▲ 25.0	0.4
県南	▲ 16.6	4.2	▲ 14.3	2.3	▲ 32.2	-17.9	▲ 24.6	▲ 26.1	▲ 35.8	-11.2	▲ 34.3	1.5	▲ 13.9	▲ 11.0	▲ 12.1	1.8	▲ 16.7	-4.6

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。
：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（地域別比較表）

（第2四半期：2021年7月～9月）

１．今期の状況

業種 ＼ 項目		業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全県	実数	20	84	66	36	59	77	11	120	40	13	38	19	18	84	70	11	110	47
	%	11.8	49.4	38.8	20.9	34.3	44.8	6.4	70.2	23.4	18.6	54.3	27.1	10.5	48.8	40.7	6.5	65.5	28.0
	DI	▲ 27.0			▲ 23.9			▲ 17.0			▲ 8.5			▲ 30.2			▲ 21.5		
秋田	実数	10	27	26	15	23	27	3	46	15	9	12	5	8	29	28	3	41	19
	%	15.9	42.9	41.3	23.1	35.4	41.5	4.7	71.9	23.4	34.6	46.2	19.2	12.3	44.6	43.1	4.8	65.1	30.2
	DI	▲ 25.4			▲ 18.4			▲ 18.7			15.4			▲ 30.8			▲ 25.4		
大館	実数	2	10	7	3	9	7	2	13	4	0	6	3	3	10	6	0	9	10
	%	10.5	52.6	36.8	15.8	47.4	36.8	10.5	68.4	21.1	0.0	66.7	33.3	15.8	52.6	31.6	0.0	47.4	52.6
	DI	▲ 26.3			▲ 21.0			▲ 10.6			▲ 33.3			▲ 15.8			▲ 52.6		
能代	実数	2	12	7	4	10	7	0	18	3	0	4	3	2	12	7	1	16	3
	%	9.5	57.1	33.3	19.0	47.6	33.3	0.0	85.7	14.3	0.0	57.1	42.9	9.5	57.1	33.3	5.0	80.0	15.0
	DI	▲ 23.8			▲ 14.3			▲ 14.3			▲ 42.9			▲ 23.8			▲ 10.0		
大曲	実数	1	13	9	1	7	15	0	18	5	2	3	4	1	13	9	4	13	6
	%	4.3	56.5	39.1	4.3	30.4	65.2	0.0	78.3	21.7	22.2	33.3	44.4	4.3	56.5	39.1	17.4	56.5	26.1
	DI	▲ 34.8			▲ 60.9			▲ 21.7			▲ 22.2			▲ 34.8			▲ 8.7		
横手	実数	1	9	9	5	4	10	3	10	6	1	6	2	2	8	9	1	14	4
	%	5.3	47.4	47.4	26.3	21.1	52.6	15.8	52.6	31.6	11.1	66.7	22.2	10.5	42.1	47.4	5.3	73.7	21.1
	DI	▲ 42.1			▲ 26.3			▲ 15.8			▲ 11.1			▲ 36.9			▲ 15.8		
湯沢	実数	4	13	8	8	6	11	3	15	7	1	7	2	2	12	11	2	17	5
	%	16.0	52.0	32.0	32.0	24.0	44.0	12.0	60.0	28.0	10.0	70.0	20.0	8.0	48.0	44.0	8.3	70.8	20.8
	DI	▲ 16.0			▲ 12.0			▲ 16.0			▲ 10.0			▲ 36.0			▲ 12.5		

※　DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（地域別比較表）

（第2四半期：2021年7月～9月）

２．来期の見通し

業種 ＼ 項目		業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全県	実数	17	84	67	28	70	72	7	117	47	10	37	23	15	86	71	10	111	49
	%	10.1	50.0	39.9	16.5	41.2	42.4	4.1	68.4	27.5	14.3	52.9	32.9	8.7	50.0	41.3	5.9	65.3	28.8
	DI	▲ 29.8			▲ 25.9			▲ 23.4			▲ 18.6			▲ 32.6			▲ 22.9		
秋田	実数	9	28	25	13	25	26	3	42	19	7	14	5	7	29	29	2	44	18
	%	14.5	45.2	40.3	20.3	39.1	40.6	4.7	65.6	29.7	26.9	53.8	19.2	10.8	44.6	44.6	3.1	68.8	28.1
	DI	▲ 25.8			▲ 20.3			▲ 25.0			7.7			▲ 33.8			▲ 25.0		
大館	実数	1	10	8	3	9	7	1	12	6	0	6	3	1	11	7	1	7	11
	%	5.3	52.6	42.1	15.8	47.4	36.8	5.3	63.2	31.6	0.0	66.7	33.3	5.3	57.9	36.8	5.3	36.8	57.9
	DI	▲ 36.8			▲ 21.0			▲ 26.3			▲ 33.3			▲ 31.5			▲ 52.6		
能代	実数	1	14	6	2	10	8	0	18	3	0	4	3	1	14	6	1	17	3
	%	4.8	66.7	28.6	10.0	50.0	40.0	0.0	85.7	14.3	0.0	57.1	42.9	4.8	66.7	28.6	4.8	81.0	14.3
	DI	▲ 23.8			▲ 30.0			▲ 14.3			▲ 42.9			▲ 23.8			▲ 9.5		
大曲	実数	2	12	9	0	10	13	0	17	6	1	4	4	2	10	11	4	13	6
	%	8.7	52.2	39.1	0.0	43.5	56.5	0.0	73.9	26.1	11.1	44.4	44.4	8.7	43.5	47.8	17.4	56.5	26.1
	DI	▲ 30.4			▲ 56.5			▲ 26.1			▲ 33.3			▲ 39.1			▲ 8.7		
横手	実数	2	9	8	6	6	7	1	13	5	2	2	5	2	9	8	1	13	5
	%	10.5	47.4	42.1	31.6	31.6	36.8	5.3	68.4	26.3	22.2	22.2	55.6	10.5	47.4	42.1	5.3	68.4	26.3
	DI	▲ 31.6			▲ 5.2			▲ 21.0			▲ 33.4			▲ 31.6			▲ 21.0		
湯沢	実数	2	11	11	4	10	11	2	15	8	0	7	3	2	13	10	1	17	6
	%	8.3	45.8	45.8	16.0	40.0	44.0	8.0	60.0	32.0	0.0	70.0	30.0	8.0	52.0	40.0	4.2	70.8	25.0
	DI	▲ 37.5			▲ 28.0			▲ 24.0			▲ 30.0			▲ 32.0			▲ 20.8		

※　DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

参 考

県内景況調査に対する各企業のコメント

Ⅰ 今期の特徴（2021年7～9月）

1 建 設 業	
・大型民間工事が見込めないので今期は完工高が減少する【一般土木建築工事】	県央
・ 職人不足により採算面でどうなるか不透明【一般土木建築工事】	
・今期の完成工事の粗利はあまり良くなかった。受注工事が少なく、人件費に経費が使われている【土木工事】	
・未消化工事の増加、利益率の悪化【塗装工事】	
・資材の値上がりによる採算悪化【一般建築】	県北
・新規受注が伸び悩み、完成工事額減少【電気工事】	県南
・受注増加による完成工事額増加【建築工事】	

2 製 造 業	
・前期と変わらず【清酒製造】	県央
・ 輸入原材料の高騰、地域水揚げの減少、消費の鈍化で厳しくなっている【水産物製造・卸売】	
・売上は前年同期より1％落ち込み。一昨年と比べると20％落ち込んでいる【印刷】	
・前期より良いが前期が悪すぎたので喜べない【印刷】	
・オリンピックの影響で中断した工事等があり、売上は多少減少した。受注価格は変わらないが、材料価格が上昇した分、利益率は下がっている【金属製品】	
・コロナウイルスの影響が昨年より悪い【花火】	県南
・出荷量減のため、売上額は減少しているものの、建築物件への高価格帯の出荷が主となっているため、採算的には前期よりも改善傾向にある【コンクリート】	

3 卸 売 業	
・コロナの影響を受けながらも踏ん張っている状況【食肉】	県央
・値上げに伴う売上増加傾向【食料・飲料】	
・取引先にコロナの影響を受け、景気の悪い所が増えてきている【電気事務機械器具】	
・エアコン関係の工事は増加の一方、アンテナ取り付け工事は減少【家庭用電気機械器具】	
・窠件の発注時期（工期）の関係で今期は減少に転じているが、想定の範囲内である【建築資材】	
・仕入価格の値上げとコロナなのかウッドショックによるものなのか売上が伸びない【左官資材】	県南

4 小 売 業	
・お盆以降のコロナ感染者増加やお盆からの気温低下なども影響し、8月中旬から売上が大きく減少し、前年実績を割り込んでしまった【婦人靴】	県央
・夏場のギフト商品の動きもさほどなく、9月が一番厳しい【茶類】	
・東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大により、自動車向け部品生産の大幅減少に加え、世界的半導体不足から国内の生産ラインが停止に追い込まれ、自動車（商品）の出荷台数が減少し、登録台数が前年同期に比べ3割前後減少した【自動車】	
・来店者数の大幅減少による売上減少【自動車用品】	
・コロナで厳しい状態である【酒類】	県北
・減収・減益【燃料】	県南
・昨年はコロナ感染に対する支援事業（ステイ湯沢キャンペーンや飲食店支援策）が充実し、売上を確保できたが今年は同様な支援策がなく、売上減少【食料品】	

5　サービス業	
・売上は下がる一方で止まらない【普通洗濯】	県央
・コロナ禍の影響はまだ続いており、売上は前年とほぼ同じ【ビルメンテナンス】	
・昨年に比べ売上はわずかながら回復したものの、コロナ前と比較すると激減の状況に変わりなく、大変厳しい状況が続いている【運輸】	
・前年同期比約18%増加となる見込[国産材、石炭、コンテナの取扱数量の増加、スポットでチップダストの取扱数量の増加による]【運輸】	
・今年は前年よりひどく、100年商売をやっているが史上最低の売上である【食堂】	県北
・新規の現場がなく、売上増とならない【測量設計】	
・コロナ感染対策として、会食に対しての規制により、お客様の利用はほぼ無い状況が続いている【ホテル】	県南
・新規契約の伸びが悪い【保険代理業】	
・前期より売上額は増加したが、コロナ前よりまだ大幅に悪化している。そのため資金繰りは非常に悪い【写真】	
・コロナの影響で昨年以上に売上が減った【広告代理店】	

Ⅱ 来期の見通し（2021年10～12月）

1 建 設 業	
・良質、高収益の工事の獲得を目指したい【一般土木建築工事】	県央
・政権がどうなるかわからないが、急激な変化はないと思う【一般土木建築工事】	
・コロナでの閉じこもりが逆効果になっている【木造建築工事】	
・来期は完成する工事が少なく、採算が悪化する見込【土木工事】	
・予想不可能【防水工事】	
・需要過剰で多くの工事を受けられない状態である。職人不足が痛手となっている【鈑金工事】	県南
・ほぼ変化なしと予想【建築工事】	

2 製 造 業	
・エネルギー並びに資材コストの増加を見込む【清酒】	県央
・コロナ後の回復により好転を見込む【清酒】	
・今期よりは改善できればと思う【水産物製造・卸売】	
・全く見通せないが、良い材料はない【婦人服】	
・コロナ終結で好転を望みたい【杉箱】	
・前年の落ち込みはイベントの中止によるものであったが、今年度も中止となり、前年比2%の増加にとどまる見込【印刷】	
・コロナ終息を機に景気回復を期待する【印刷】	
・春先から9月末まで首都圏の物件が少なかった分、今後の受注は順調である【金属製品】	
・鋼材費を含め副資材の価格が高騰し、売上額を押し上げる見通し【金属製品】	
・休業継続で過剰在庫を抑制する【花火】	県南
・受注残が減少となるため、売上減少となるが、採算性は前期から改善の見込である【コンクリート】	
・11月から観光OFFシーズンになる。今後のGOTOキャンペーンに期待したいが、来年春からになるのではないか？【乾麺】	

3 卸 売 業	
・コロナの発生状況次第であり、予想は難しい【食肉】	県央
・コロナの影響がまだかなりありそう【電気事務機械器具】	
・大変厳しい状態が続くと思う【家庭用電気機械器具】	
・今期と同様を見込む【建築資材】	
・毎年冬に向けて売上は減少するが、来期は今期の売上不振を取り戻せるか不明である【左官資材】	県南

4 小 売 業	
・予想以上に売上が減少している。コロナの影響により、生活スタイルが変わってしまったことが主な要因であり、しばらくは厳しい状況が続きそうである	県央
・寒くなると多少は商品の動きも良くなると思うが、何しろ消費者の志向が変化しているので売上を増加させるのは大変だ【茶類】	
・除雪量の影響を受ける見込【自動車部品】	
・不変の見通し【自動車部品】	
・東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大の終息が見えず、10月もメーカーの生産ラインが停止することから自動車の出荷台数の減少は当面続くことが予想され、仮にメーカーの生産が正常化したとしても前年同期を大きく下回ることが見込まれる【自動車】	
・原材料の値上がりにより業況が悪化する見込【菓子】	県北
・先が見えない【酒類】	
・減収・減益を見込む【燃料】	県南
・コロナ感染者数の減少とワクチン接種率の上昇でやや期待感もあるが、今のところ全体的に慎重ムードが高く、宴会が開催されていない。忘年会等の需要も完全回復は難しいと思われる【食料品】	

5 サービス業	
・売上は下がり続ける見通し【普通洗濯】	県央
・昨年はGOTOキャンペーンで一時的に回復したが、現状停止されているため、全体として業況は不変を見込む【運輸】	
・しばらくは昨年と同じ状態が続くと思われる【ビルメンテナンス】	
・前年同期比で約7%増加となる見込[亜鉛鉱、石炭の取扱数量の増加]【運輸】	
・コロナが終息しない限り厳しい【食堂】	県北
・冬期間は毎年売上減少となる【測量設計】	
・前年はプレミアム飲食券、地域商品券等の支援により、売上額をある程度確保できたが、今年はGoToEATが11月で終了となるため、前年の売上は見込めない【冠婚葬祭】	県南
・何とか前年売上と同じになるよう努力しているが、厳しいと思う【保険代理業】	
・今期とほぼ同じと思われるが、緊急事態は解除されたので少しは期待している【写真】	
・コロナの影響がまだ続くと思われる【広告代理店】	